

《課題名》

透析患者および非透析患者における全身麻酔導入時の血圧低下に関する検討

《対象者》

2011年4月～2017年9月に本院に入院され血液透析患者および非透析患者で全身麻酔を受けた患者さん
(ただし、心臓血管外科手術、既挿管、20歳未満を除く)

研究協力をお願い

当科では「透析患者および非透析患者における全身麻酔導入時の血圧低下に関する検討」という研究を行います。この研究は、血液透析患者または非透析患者で全身麻酔を受けた患者の臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：透析患者および非透析患者における全身麻酔導入時の血圧低下に関する検討

研究期間：倫理委員会承認～2026年3月31日

実施責任者：滋賀医科大学 麻酔学講座 清水盛浩

(2) 研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

透析患者では骨ミネラル代謝異常により血管石灰化が高度に進行しており、透析患者の麻酔導入時には非透析患者に比べ血圧が低下しやすいことが言われています。心機能や脳血管、臓器血流の維持は非常に重要であり麻酔導入時の血圧低下は致命的なことになりえます。透析患者において麻酔導入を慎重に行っていても血圧が大幅に低下する例があります。血圧が大幅に低下する症例を予見することができれば血圧低下に伴う様々な合併症を予防することにつながります。

透析患者の麻酔導入時における血圧の変動は、非常に進行した動脈硬化により大きく変動します。このように麻酔導入時に血圧が大きく変動しますが、血液透析中における血圧の低下も様々な合併症を引き起こすと言われています。しかしそれを予見する因子を散見するが明らかになっていません。そこで今回、麻酔導入時の血圧低下を予見する指標として透析時の血圧低下と関連があるかどうかということについて新たに着目します。そして透析患者の血圧変動が非透析患者と比べ差があるのかどうか、関係する因子があるのかどうかについて比較検討します。

(3) 研究の方法について

《研究の方法》

2011年4月1日から2023年9月30日までの期間を電子カルテを参照しデータを解析します

評価項目

年齢、性別、身長、体重、既往歴、喫煙歴、心電図、血液検査、心臓超音波検査、麻酔方法、麻酔記録(血圧、心拍数、麻酔時間、水分量、血液量、病名、術式等)、麻酔薬、昇圧剤、降圧剤、透析記録(血圧、心拍数、透析歴等)、内服薬、手術日、受診日、ASA、退院日、外来受診日

(4) 予測される結果（利益・不利益）について

この研究により麻酔計画の立案、患者安全の確保につながり、社会的な利益が得られると考えられます。参加頂いた場合の不利益はありません。

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報を直接同定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(7) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 《窓口所属》麻酔科 《対応者氏名》清水盛浩

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2281

メールアドレス： hqanes@belle.shiga-med.ac.jp